

“若手映像クリエイターの登竜門”SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024開幕！
オープニング・セレモニー&『初級演技レッスン』ワールドプレミア
毎熊克哉、大西礼芳、岩田奏、串田壮史監督登壇
オープニング上映で映画祭が華やかに開幕！



ご担当者各位

平素より大変お世話になっております。

国際コンペティション、国内コンペティション（長編部門・短編部門）を中心とした“若手映像クリエイターの登竜門”「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024」（主催：埼玉県、川口市、川口商工会議所ほか）は、本日7月13日

（土）に初日を迎え、国際コンペティション部門で審査委員長を務める映画監督の白石和彌氏、国内コンペティションの審査委員長を務める映画監督の横浜聡子氏をはじめとする審査員一同と、国内外から集まったコンペティション部門のノミネート監督らが出席してオープニング・セレモニーを開催しました。

セレモニー後のオープニング上映では、『初級演技レッスン』をワールド・プレミアで上映しました。上映前に行われた舞台挨拶では、出演の毎熊克哉、大西礼芳、岩田奏、串田壮史監督の4名が登壇しました。『初級演技レッスン』は、即興演技を通じて人々の記憶に侵入する男が、夢と現実のはざまに《奇跡》に出会う物語です。2020年に『写真の女』で本映画祭SKIPシティアワードを受賞し、昨年も『マイマザーズアイズ』が2作品連続で国際コンペティションにノミネートの新鋭・串田壮史が監督。また2011年短編部門奨励賞を受賞した『ケンとカズ』の毎熊克哉が主演し、2014年短編部門にノミネートの『時ノカケラ』の大西礼芳が共演します。

映画祭の歴史を紡ぐ本作品にご注目ください。

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024は、本日7月13日（土）から21日（日）までの9日間、埼玉県川口市のSKIPシティを会場にしたスクリーン上映、7月20日（土）から24日（水）までの5日間は特設サイトでのオンライン配信として、ハイブリッド形式で開催します。

コンペティションでは、102の国・地域から応募のあった1,201作品から厳選した24作品を、国内初上映でお届けします。

国際コンペティションには2009年に本映画祭でSKIPシティアワードを受賞し、その後、『死刑に至る病』、『碁盤斬り』など話題作を手掛けている白石和彌監督が審査委員長として凱旋します！

国内コンペティションでは、『ジャーマン+雨』や『ウルトラミラクルラブストーリー』の横浜聡子監督が審査委員長を務めます。

コンペティションは映画祭期間中の最終審査を経て最優秀作品賞をはじめ各賞を授与します。

さらに、特集「商業映画監督への道」では審査委員長の白石監督と横浜監督の作品上映と若手映画監督に向けて商業映画監督としてのご経験をお話いただくトークイベントを開催します。

また、映画祭をより身近に感じていただくために、名作の中からアンケートを実施し、上位となった4作品『ドライブ・マイ・カー』『スタンド・バイ・ミー』『ショーシャンクの空に』『トップガン マーヴェリック』を上映します。『トップガン マーヴェリック』の上映後には映画字幕翻訳者の戸田奈津子さんをお招きしてトークイベントを開催します。

ほかにも家族で楽しめる野外上映の開催や、JR川口駅東口のキュポ・ラ広場ではDシネマルシェを開催するなど盛りだくさんの内容となっています。

つきましては、オープニング・セレモニーおよびオープニング作品『初級演技レッスン』舞台挨拶のご報告をお送りいたします。

ぜひ貴媒体にて、本情報をご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問合せ・ご取材：SKIPシティ映画祭事務局 広報：青木・田中

Tel：048-263-0818 Eメール：press@skipcity.com

※すべてのイベントは予告なく変更または中止となる場合がございますのでご了承ください。

▷＜オープニング・セレモニー＞

主催者の大野元裕映画祭実行委員会会長（埼玉県知事）、奥ノ木信夫映画祭実行委員会副会長（川口市長）、細野博隆映画祭実行委員会委員（川口商工会議所会頭）が登壇し、21回目の映画祭開催を祝して挨拶をいたしました。

また、土川勉ディレクターより白石和彌（映画監督）、荒木美也子（アスミック・エース株式会社 社長特命事項担当・プロデューサー）、武井みゆき（配給会社ムヴィオラ代表）の3名の国際コンペティション審査員、横浜聡子（映画監督）、川瀬陽太（俳優）、メイスク・タウリシア（映画プロデューサー）の3名の国内コンペティション審査員、ならびにコンペティション部門ノミネート作品の紹介がありました。

▷＜オープニング上映『初級演技レッスン』舞台挨拶レポート＞

■日程：7/13（土）オープニング・セレモニー 14:00～14:50『初級演技レッスン』舞台挨拶 15:00～15:25

■会場：SKIPシティ 映像ホール（埼玉県川口市上青木3-12-63 4F）

■登壇者：毎熊克哉、大西礼芳、岩田奏、串田壮史監督

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024が7月13日（土）に開催され、オープニング作品『初級演技レッスン』の上映前に舞台挨拶が行われた。この作品は“初級演技レッスン”を開いたアクティングコーチと、そのレッスンを通じて人生を遡る俳優たちを描いた一風変わった映画。ワールド・プレミアとなる本作について串田壮史監督は「あえて作品の情報を出してこなかった。ファミリー映画かもしれないし、ミュージカルかもしれない。演技のレッスンビデオかもしれないし、何が出るかわからない」と、作品内容についての言明は避け、「とにかく何の情報も入れないその状況を楽しんでもらいたい」と語った。

主演の毎熊克哉は、本映画祭2011短編部門で奨励賞を受賞した『ケンとカズ』（11）の主演も務めたが、当時は会場に来ることが叶わず小路紘史監督がひとりで登壇。13年越しの本映画祭参加となることについて毎熊は「『ケンとカズ』は自分にとって人生が変わった映画で、そのおかげでこれまで色々続けてこられた。そして『初級演技レッスン』は間違いなく自分の代表作になると胸を張って言える作品。SKIPシティには何かの節目で補佐してもらっていると感じていて、とても感慨深い」としみじみと語った。

また、本映画祭2014短編部門ノミネート作品『時ノカケラ』（14）主演の大西礼芳も、本作で10年振りの映画祭参加。『時ノカケラ』は、大学を出て上京してすぐの作品だったので、不安の多い毎日だったと言い「まだ映画に参加させてもらっていますよ、と10年前の自分に言ってやりたい」と10年越しのカムバックに喜びの表情だ。

期待の若手となる岩田奏は、父を亡くした子役俳優を演じる。今回が初の本映画祭の参加ということで、やや緊張気味の面持ち。台本を一読して「頭の中で映像化するのが難しく、どうなるんだろうか」と不安と期待の入り混じった日々を送るも、監督から「演技レッスンという場がとても不思議で面白い空間だ」という話を聞いて共感。演じていてとても楽しかったと充実の笑顔だ。

本作は“即興の演技を通じて人々の記憶の中に侵入する男が、夢と現実の狭間で奇跡に会う”というストーリー。監督の串田壮史は初長編映画『写真の女』（20）が本映画祭2020で日本作品として唯一国際コンペティションにノミネートされ、SKIPシティアワードを受賞し、続く『マイマザーズアイズ』（23）も本映画祭2023の国際コンペティションにノミネート。本作が長編三作目となり、“出品可能なのは長編三作目まで”という本映画祭の規定から本作をもってSKIPシティは卒業となる。これまでを振り返りながら「最高の花道を用意していただいたので、こちらも最高の作品で応えようと思って制作した」と、自信を覗かせた。

最後に『初級演技レッスン』の魅力改めて尋ねられたキャスト陣。岩田は映画のもつ空気感を、そして大西は“反復”の魅力を感じ取ってほしいと語った。主演の毎熊は「気付いたら終わっているような体感。理屈じゃないものがたくさん写っていて、それをどう受け取っていただくか、とても楽しみです」と締めくくった。

【素材のご提供】

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024のフォトセッション他オフィシャル写真、プレス資料などは、以下URLよりダウンロードいただけます。



<https://x.gd/u2FkV>

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024開催概要

- 会 期 : 《スクリーン上映》 2024年7月13日（土）～7月21日（日）
《オンライン配信》 2024年7月20日（土）10:00～7月24日（水）23:00
- 会 場 : SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール、多目的ホールほか（埼玉県川口市）
- 主 催 : 埼玉県、川口市、川口商工会議所、SKIPシティ国際映画祭実行委員会
- 公式サイト : www.skipcity-dcf.jp

お問合せ・ご取材：SKIPシティ映画祭事務局 広報：青木・田中

Tel：048-263-0818 Eメール：press@skipcity.com

※すべてのイベントは予告なく変更または中止となる場合がございますのでご了承ください。